

以上から考えると、高度成長期の地域社会について、保守対革新、革新自治体が成立したか否かではなく、地域のあり方をどのように模索していたのかを分析することが必要といえる。地域医療・福祉政策を推進した主体の五〇年代のあり方を問うことが、戦後日本社会の形成を考える際に重要な論点となる。

〔東洋史部会〕

三國呉の孫権による馬匹獲得戦略

伊藤 光成

三國呉の初代皇帝である孫権による対外政策については、これまでその目的を敵対する魏への牽制・圧力に位置づける見解が主流であった。本発表においては、時期毎の対外政策方針の変遷を考察した上で先行研究の見方を再検討し、孫権の対外政策において、実際は馬匹の入手が大きなウエイトを占めていたことを論じた。

孫権は、敵対する魏の勢力範囲である華北地域に比べて、馬匹の入手が難しい江南地域を根拠地としながらも、当時の情勢は強大な魏に対抗するための軍備の増強を要求するものになっていた。こうした状況の中で、馬匹獲得戦略が対外政策の大きな柱となってい

たと考えられる。

孫権は、二一七年以降、表面的に魏に臣従することで馬匹の入手ルートを確保すると共に、二一〇年頃から嶺南地方に割拠していた士燮率いる士氏政権を服属させ、士氏政権が把握する南中との交易ルートを經由して南方から馬匹を入手した。しかし魏との関係は蜀漢との対決を目的とした一時的なものであり、南中からのルートも安定的なものではなかった。二二二年に魏との断交を決めた後、孫権は南中の豪族たちが起こした蜀漢への反乱を支援しているが、これは南中からの大量・安定的な馬匹供給を狙ったものと推測される。ただ、この反乱は内訌及び蜀漢の諸葛亮による出兵により失敗に終わっており、二二六年に士燮も死去したため、南中との繋がりが断たれることとなる。孫権は二二八年頃までに嶺南地方の直接支配を目指して士氏一族による叛乱を鎮圧するものの、治安の回復には失敗した。こうして孫権は新たな馬匹入手ルートの確保を迫られることとなったと考えられる。

こうした状況下で孫権が目にしたのが、遼東半島に勢力を築いていた公孫氏政権であった。孫権は皇帝に即位した二二九年以降、遼東太守公孫淵に対して関係構築を求める使者を連年派遣している。先行研究においては、対魏牽制という面から孫権の対遼東政策を位置づける見解が主であったが、孫権の遣使がこの時期から始まる理由は、馬匹の入手という目的を考慮することで見えてくる。孫権は公孫氏政権との間に同盟・服属といった政治的関係を持たない交易

のみの関係を構築し、公孫淵の黙認の下で呉の使者は遼東の民から馬匹を入手した。しかし、この交易を察知した魏からの侵攻を回避するために公孫淵が呉への藩属を申し出ると、関係は大きく変化する。二三年、孫権は群臣の反対を押し切って公孫淵を燕王に封じるための大規模な使節団を派遣した。結局周囲の憂慮は正しく、公孫淵は魏への再服属を決め、呉使を捕えて斬り、その首を魏に送った。孫権の意図が那邊にあったのかは、公孫淵の裏切りに怒った孫権が企図した遼東親征を諫める重臣たちの上疏を検討することによって明らかとなる。上疏においては、公孫淵が名馬を送ってこなかったことへの怒りを露にする孫権の、馬匹への執着が諫められている。つまり、孫権は遼東との関係において一貫して馬匹の入手に拘泥していたと考えられるのである。

遼東との関係は断絶したものの、二三年の使節団の一部が高句麗に逃げのび、高句麗王位宮の使者を伴って帰国したことにより、孫権の対北方政策は継続した。二三年、孫権は位宮を単于に封じる使者を派遣しているが、目的は馬匹の入手にあったと思われる。これは、高句麗が一度は呉を裏切って魏につこうとしたことの謝罪として、馬数百匹が位宮から献上されていることから分かる。また、「単于」という称号は、当時高句麗と対立していた夫余王の称号としても見られることから、位宮の欽心を買うため、高句麗の情勢に配慮して与えられたものと考えられる。しかし、こうした孫権の配慮も空しく位宮は魏への服属を決め、高句麗との関係構築も不

首尾に終わった。ただ、こうした失敗の裏で、二三年に孫権は、馬と真珠・玳瑁等の南方物産の交易のオフアアを受諾している。高句麗と断絶の後は、この交易が唯一の馬匹入手ルートになり、馬匹の供給は魏によりコントロールされる状況になったと推測される。敵対する魏から馬匹を入手するという矛盾した状況こそ、孫権の置かれた窮状を明確に示している。

呉の重臣・陸瑁が、遼東に馬匹を求めた理由を「腹心之疾」を除くためと位置づけていることは、呉における馬匹不足の深刻さを物語る。孫権はこれを解決せんがため、積極的かつ柔軟な対外政策を展開した。孫権の対外政策は、それまでの馬匹入手ルートが断絶する度に新たな展開を迎えている。馬匹が豊富な地域を把握し、各地域とそれぞれに異なった形で関係を構築していることは、孫権が情報収集を積極的に行っていたことの証左であり、孫権の熱意が見取れる。孫権の馬匹獲得戦略は、江南に割拠した王朝が持つハンデを埋めるべく行われた、一大プロジェクトであったと言えるのではないか。